

救急・集中治療部からのお知らせ



救急集中治療医学講座教授 / 救急・集中治療部長 江口 豊

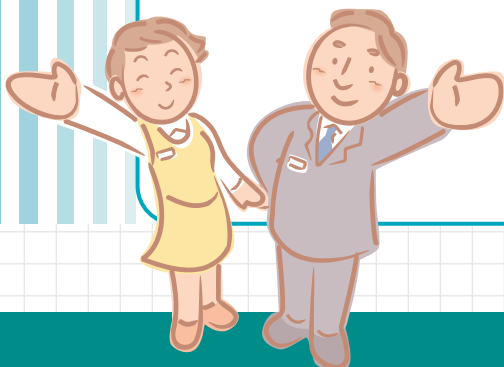


救急・集中治療部は、平成2年6月に救急部、同5年4月に集中治療部が設置（省令化）され、同15年4月に救急集中治療医学講座が新設されました。それに伴い、救急部と集中治療部は、同16年4月に救急・集中治療部に統合・設置されました。

国立大学の法人化に際して、病院の中期目標・中期計画が策定され、平成16-21年度の中期計画の一つとして救急集中医療体制の整備があげられております。具体的には集中治療室の12床（現在6床）への増床や、High Care UnitやStroke Care Unitの整備等が予定されております。すでにその一貫として、平成16年10月1日より救急部入院ベッド4床を5B病棟に一括し、その内2床に対しモニター類の設置等の整備を行い、High Care Unit的機能を有する個室としました。

従来より、集中治療部として、脳低温療法、急性血液浄化法、経皮的人工心肺補助装置、重症敗血症・DICの積極的な治療を行ってきました。関係各科の協力のもと多発外傷、脳および冠血管障害に対し受け入れ体制も強化されております。他病院や診療所からの重症症例や救急車搬送症例は、All Acceptの原則をモットーに、救急・集中治療部専属医総勢10名が交代制勤務で積極的に受け入れておりますので、遠慮なくご連絡をお願いいたします。

本学は今年開学三十周年を迎え、本学創設の理念、「一隅を照らす」に基づき、患者様中心の医療の伝統を受け継ぎ、さらに推進することが使命と考えております。総合診療部との連携によるメディカルコーディネーションセンターとして一次から三次救急・集中治療までの一体運営を強化し、全科当直制である本院の特性を生かして各科との連携をなお一層強め、ほぼ全ての救急症例に対応できる救急救命センターを超える病院として発展していきたいと考えております。



麻酔科診療日案内 ~ ペインクリニックにおける 中期目標への取り組み ~

麻酔科講師、外来医長 福井 聖

外来の診察日が9月から変更になりました。月、水、木、金の週4日で、外来診療時間は、原則としてすべて予約制としています(図1)。ペインクリニックの認知度が高まるにつれて、毎年患者数は増加してきており、外来患者数は平成13年度から3000人を越え、平成15年度からは5000人を越えるようになり、飛躍的に伸びています(図2)。しかし最近では外来患者数の増加に十分に対応できていないことから近隣のペインクリニック開業医と病診連携を進め、その増加に対応しています。

透視下神経ブロック治療を中心とした Interventional Pain Treatment

透視下神経ブロック療法と手術療法の、ペインクリニックでは最も重要な治療手段で、中心的治療と位置づけており、安全で確実な治療を目標としています。月、

水、木曜日の午後は放射線科、手術室で、X線透視下の神経ブロック治療を行っています。

月曜日はCT透視で経皮的椎体形成術(Vertebroplasty)をペースにのせること、水曜日は手術室で、硬膜外内視鏡による神経剥離術などの手術療法の数を増やすことを今年度の目標にしています。木曜日は午後1時から5時まで、日帰りの治療を含めて、放射線科のX線透視室で透視下の神経ブロック治療を一日6~8件行っています(図3)。将来的には一日10件以上の透視下神経ブロック治療を施行していく方向です。Interventional Pain Treatmentのトレーニングは外科のトレーニングと同じと考えており、集中的に多くの症例をこなすことがテクニックを習得するのに必要で、ペインクリニックの育成のなかで、一番重要な部分と考えています。

図1 麻酔科診療日

麻酔科外来診療体制の変更について

9月1日から、麻酔科外来の診療体制を下記のように変更することになりました。ご不便をおかけしますが、どうぞご理解いただきますようお願いいたします。

新体制

月	火	水	木	金
(術前)野坂 (ペイン)福井 (主に再来)	外来なし	(ペイン)福井 飯田 岩本 塚原(隔週)	〔午前〕 (緩和ケア外来)岩本(予約のみ) (ペイン)深見、福井 (予約のみ) 〔午後〕 (透視下ブロック)福井・岩本・深見 (予約のみ)	(ペイン・隔週)藤野・北川

(平成16年8月31日まで)

月	火	水	木	金
(術前)野坂 (ペイン)福井 今宿 岩本	(術前)佐井 (ペイン)佐井 岩本	(ペイン)福井 飯田 今宿		(ペイン・隔週)藤野・北川 (ペイン・毎週)今宿

図2 外来患者数の年次推移

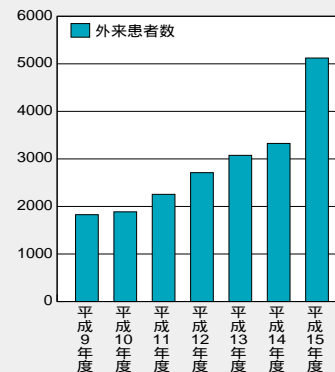
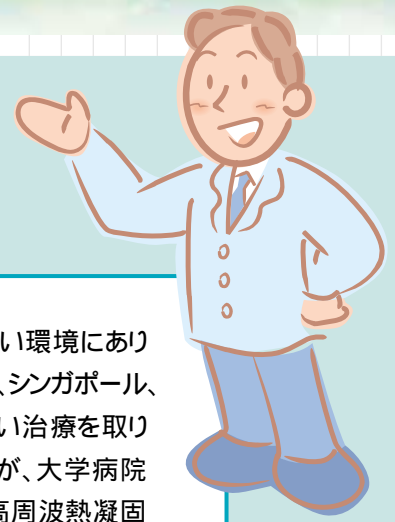


図3 IDET施行時のXp、Epiduroscopy施行時の手術室





緩和医療へのアプローチ

癌性疼痛のコンサルトが増加してきたため、木曜日の午前中に癌性疼痛の緩和ケア外来を開設し、主にオピオイドや鎮痛補助薬の使用法、副作用対策などを中心にコンサルトに応じています。適応があれば腹腔神経叢ブロックなどの神経ブロック療法なども行っています。当院では麻酔科ペインクリニックのマンパワーが不足しているため、十分な緩和医療が行えているとはいえませんが、将来的には麻酔科から緩和医療の専門家が育つのが理想と考えています。

新しい低侵襲治療への取り組み

現在日本は規制が厳しく、欧米などで行われている新しい低侵襲治療、Epidurolysis、圧迫骨折に対するKyphoplasty、Oseteoplasty、またContained Discに対するNucleoplasty、三叉神経節や神経根

に対するPulsed-RFなどに取り組みにくい環境にあります。欧米はもとより、アジアの韓国、香港、シンガポール、中国の一部にも遅れをとっており、新しい治療を取り入れていくのは手続きがたいへんですが、大学病院の役割と考えており、IDET(椎間板内高周波熱凝固法)から始めて毎年低侵襲治療に取り組んでいくつもりです。

今後の展望

最近evidence based medicineと個々の患者さまに合わせたnarrative based medicineを癒合させた、個々の患者さまにあった医療を目指すことが主流になってきており、QOLの向上を目指した医療はますます重要視されてきています。患者さまの把握に基づくQOLを重視した診療を行い、新たなペインクリニックの育成に努めていきたいと考えています。

【生活習慣病センター開設のお知らせ】

生活習慣病予防センター センター長 柏木厚典



本年11月より病院2階 内分泌代謝内科、腎臓内科外来に加えて新たに「生活習慣改善外来」を開設し、本外来患者さまの多くが生活習慣に関連して発症する疾患が多いことから、外来名称を「生活習慣病センター」と改名致します。

本センターでは、一般外来診療を活性化することは別に、生活習慣に関する介入方法を検討し、その有効性を科学的に検証し、地域社会における有効な生活習慣改善モデルを提供することを目的とします。

介入外来としては、まず、1)禁煙外来、2)食事指導外来、3)生活習慣改善外来を開設致します。この外来では、介入方法の確立、その有用性の検証を行います。今後の予定として、リハビリテーション部とも相談して、肥満者に対する障害のない運動習慣改善プログラムを開発し、有効な生活習慣改善モデルを提供することを計画しております。

これらの診療活動を通じて、生活習慣病に対する集学的かつ包括的な予防と治療を図ることを目的としています。外来担当予定表は右記のとおりですが、すべて予約制となりますのでご了承ください。

外来担当予定表

臓器別区分	月	火	水	木	金
糖尿病	柏木	(午前)柏木 (肥満)	西尾	西尾 (高脂血症)	前川 (肥満)
内分泌 肥満	前川	(午後)卯木	(午前)松村 (高脂血症)	卯木 (内分泌)	吉村
高脂血症		江川 (内分泌)	(午後)吉崎		
腎臓	古家 (糖尿病性腎症)	一色 (腎不全)	杉本 (腎炎)	磯野 (腎炎)	古家 (糖尿病高血圧)
	荒木 (糖尿病性腎症)			荒木 (腹膜透析)	
	(午後)杉本 (膠原病)				
生活改善 禁煙指導		岡村 / 宮村 (第2・第4)			
食事指導		岩川 / 栗原 (第1・第3)			
生活指導			任		

滋賀医科大学開学30周年記念事業

国際シンポジウム・記念講演会・記念式典・記念祝典を盛大に挙行

滋賀医科大学では、本年10月1日をもって開学30周年を迎えました。10月1日に記念国際シンポジウム、10月2日に記念講演会・記念式典および記念祝典を大津市内のホテルで盛大に挙行了しました。

国際シンポジウムでは、交流協定を締結している5大学(カナダのプリティッシュコロンビア大学、中国の北華大学とハルビン医科大学、フランスのピカルディー・ジュール・ベルヌ大学、イタリアのローマ大学)の学長、副学長が出席し、医学教育制度等について、活潑な意見交換が行われました。

10月2日の記念講演会では、日本代替・相補・伝統医療連合会議理事長 渥美和彦先生による「21世紀は統合医療になる」、先端医療振興財団理事長 井村裕夫先生による「生命科学の進歩とこれからの医療」と題しての講演が行われました。

記念式典では、吉川滋賀医科大学長の挨拶の後、中山文部科学大臣(代読:石野高等教育局医学教育課長)、國松滋賀県知事、野上神戸大学長、山敷滋賀

滋賀医科大学開学30周年記念式



県医師会長、マクギアプリティッシュコロンビア大学教授から御祝辞をいただきました。

式典終了後には記念祝典が開かれ、鏡開きの後、国会議員、大学関係者、協定大学関係者、病院関係者、事務職員等300名を超す参加の中、これからの滋賀医科大学の未来に思いをはせつつ、和やかな歓談の場となりました。

アミアン ピカルディー大学病院(フランス国)との協定を締結

滋賀医科大学とピカルディー・ジュール・ベルヌ大学(フランス国)の両大学間においては、1995年5月16日に交流協定締結を行っているところですが、このたび、本学開学30周年を機に、ピカルディー・ジュール・ベルヌ大学が所管するアミアン ピカルディー大学病院と本学医学部附属病院との間で新たに両病院の相互基本方針について調印を行いました。

調印式は2004年10月4日、本学中会議室にて、本学から吉川学長、森田病院長、ピカルディー・ジュール・ベルヌ大学からネミッツ医学部長、ドミー病院長が出席して、協定締結書に署名調印が行われました。

協定の主な内容としては、交換派遣プログラムの実現のための適切な配慮を行うこと、知識の共有と教育を目的と

した客員交換を支援すること、科学的研究計画の実現のための協力などとなっています。また、この協約は相互の合意のもとに変更が可能であるとともに、署名日付から5年間で有効で、6ヶ月前までに終結提議のない限り、自動的に延長されることとなっています。



滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

滋賀医大病院ニュース第4号

編集・発行: 滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL: 077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。

理念を実現するための基本方針

患者さま本位の医療を実践します
信頼・安心・満足を与える病院を目指します
あたたかい心で最先端の医療を提供します
地域に密着した大学病院を目指します
世界に通用する医療人を育成します
健全な病院経営を目指します